

【目的】

カルセオラリア 'F1 ミダス' の1,2月出し栽培のための育苗技術を確認するため、催芽処理方法と育苗温度が苗の生育と切り花形質に及ぼす影響について検討した。

【材料および方法】

試験Ⅰ：は種後の冷蔵日数と発芽

2003年9月22日に228穴セル成型トレイに、は種用調整ピート(商品名:BERGER BM2)を入れ、'F1 ミダス'の種子をセル当り2粒は種後、黒色ポリ袋に入れて10℃で0, 3, および7日間冷蔵処理した。処理終了後、昼/夜温を30/20℃に設定した自然光型ファイトトロンで発芽させ、発芽率の推移を調査した。

試験Ⅱ：は種後の冷蔵温度と発芽

2004年8月21日に直径9cmシャーレにろ紙を敷き、純水で湿らせた後、シャーレ当り100粒は種し、5, 10および15℃で7日間暗黒下で冷蔵処理した。処理終了後、30℃の人工気象器内で発芽させ、発芽率の推移を調査した。

試験Ⅲ：育苗温度と苗の生育および切り花形質

2003年8月6日に試験Ⅰと同じ方法では種後、昼/夜温を30/20, 25/15℃に設定した自然光型ファイトトロン内で8週間育苗した後、苗の形質を調査した。同年10月1日に、80cm幅のうねに株間20cm, 条間40cmに2条植えし、施肥はマイクロロング70日タイプ(N-P₂O₅-K₂O:12-10-11)を用いて、N12kg/10aとなるように全量基肥として施肥した。11月1日に6節を残して摘心し、同日より翌年1月15日まで、4hr暗期中断処理(22:00~2:00)し、12月20日より最低夜温7℃に加温した。

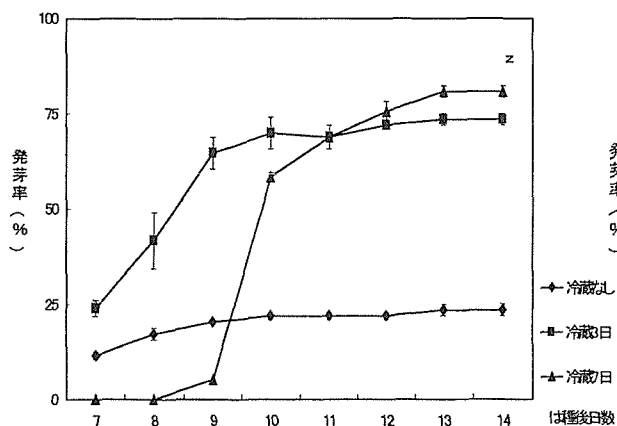
【結果および考察】

試験Ⅰ：は種14日後の発芽率は、冷蔵7日間区が81%、同3日間区が73%、無冷蔵区が23%となった(第1図)。このことから、'F1 ミダス'の催芽処理には、10℃で1週間の処理が有効であると考えられた。

試験Ⅱ：15℃区は、冷蔵終了時点で75.5%発芽した。10℃区は、冷蔵終了時点で未発芽であったが、4日後には91.5%発芽した。5℃区は、冷蔵処理終了4日後も発芽しなかった(第2図)。このことから、'F1 ミダス'の催芽処理は冷蔵処理中の発芽を防止し、発芽率を高めるために10℃で7日間の処理が有効であると考えられた。

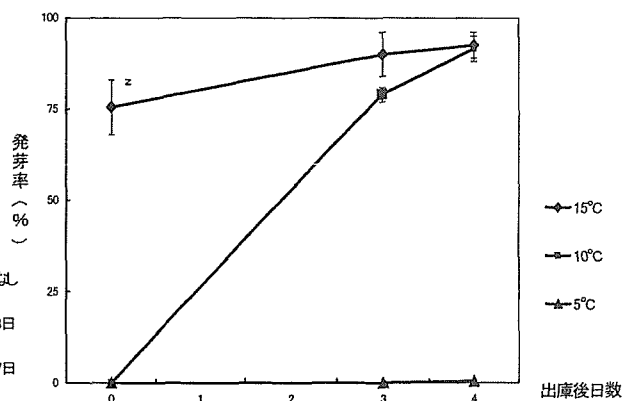
試験Ⅲ：苗の長径×短径、苗節数および草丈は30/20℃区で大きくなった。また、切花重、切花長も30/20℃区が優れた。このことから、'F1 ミダス'の育苗温度は30/20℃が適していると考えられた。

以上の試験から、カルセオラリア 'F1 ミダス'の育苗では、は種後、10℃7日間の催芽処理の後、昼温30℃、夜温20℃の冷房育苗を行なうことで良質の苗を確保できると考えられた。



第1図 は種後の冷蔵日数が発芽率に及ぼす影響(発芽温度:30/20℃)

z 縦棒は標準誤差



第2図 は種後の冷蔵温度が発芽率に及ぼす影響

z 縦棒は標準誤差

第1表 育苗温度が苗の形質と切り花に及ぼす影響

育苗温度	苗長径× 短径 ^z	苗節数 ^z	草丈 ^y	収穫始	採花本数	切花重	切花長	切花節数
昼温/夜温	cm ²		cm	月/日	本/株	g	cm	
25/15℃	5.7	3.3	59.8	1/13	10.8	13.5	66.5	6.8
30/20℃	13.4	4.4	63.2	1/9	11.0	15.0	68.7	7.0
有意性 ^x	**	**	*	**	-	**	*	NS

z 2003年9月26日調査

y 同年12月31日調査

x t検定により、**は1%水準、*は5%水準、NSは有意差なし